令和５年度　松山北高等学校　入学式

Ｒ５．４．10

先週末の雨で校内の満開だった桜の花も少なくなりましたが、新鮮な若葉が鮮やかに映えて、生命の息吹を感じる季節になりました。

ただ今入学を許可しました361名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が流行の始めであった小学校の卒業式や中学校の入学当初の困惑が、まさか中学を卒業するこの春まで３年以上続くとは思わなかったことでしょう。

「なぜ今、なぜ私たちなのかと考えました。」どうにもできない胸の内を明かした答辞の結びは、「勇気と希望と知恵をもって力強く進んでいきます。この先に今年があってよかったと思える日々があると信じて」貴重な３年間がコロナと重なった世代の卒業生が答辞で述べた言葉です。愛媛新聞の地軸の一部から紹介させていただきました。

本校をこの春と昨年の春に卒業した生徒たちも卒業に当たり、「私たちは、コロナ禍で可哀そうな世代で、いろいろなことができなかったまま終わった学校生活ではない」と堂々と語って旅立ちました。それは、様々な制限があったからこそ、できることは何か、仲間と考え、工夫し、支え合って見つけながら学校生活を充実させようとしたことに誇りや自信を持っていました。

きっと皆さんも中学時代の３年間、様々な経験を前向きな気持ちで受け止めて、今日の日を迎えていることでしょう。合格発表の日から本日の入学の日を迎えるまで、心身ともにいい準備ができ、入学後はさらに躍動的な皆さんの姿を見せてくれるものと期待しています。コロナ禍以前に戻りつつある中、この約３年間を少し振り返ってみました。引き続き、式辞の続きを述べさせていただきます。

松山城の雄姿を仰ぎ見る勝山にも草木が芽吹き、柔らかな春風が心地よく感じる今日の佳き日に、御来賓並びに保護者の皆様方の御臨席を賜り、松山北高等学校令和５年度入学式を、４年ぶりに全校生徒で盛大に挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。若木のようにさわやかで、澄んだ瞳で前を見ている皆さんを迎えることができたことを、たいへん嬉しく思うとともに、豊かな才能を秘めた皆さんが未来に向かって挑戦する姿に期待が膨らみ、教職員一同も高揚感でいっぱいの気持ちであります。

また、保護者の皆様におかれましては、本日、お子様の晴れの姿をご覧になり、大きな喜びと頼もしさを感じておられることと存じます。これまで、お子様の成長を深い愛情と厳しさをもって、見守り、支えてこられましたことに、深く敬意を表しますとともに、皆様をお迎えして令和５年度がスタートできますことを、在校生・教職員を代表いたしまして、心から歓迎いたします。先日の合格発表の後、皆様ご承知のとおり、第５回ＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）で、日本代表を優勝に導いた栗山英樹監督の、選手たちを「信じる力」が賞賛されました。帰国直後、栗山監督が各テレビ局に出演した中で、「選手を信じることによって、結果、選手が力を発揮してくれるのであれば100％信じる」という趣旨のコメントがありました。また、ＷＢＣの試合も声を出して応援できるようになったことから、「応援する人たちの思いが、人を動かすと感じた」とのコメントもされていました。私たちも保護者の皆様と同じ気持ちで、お預かりしたお子様たちを卒業の日まで、皆様と一緒に信じて、応援し、共に支えていく覚悟であります。

さて、本校は明治33年の北予中学校として創立されて以来、今年で創立123年目を迎える伝統校であり、巣立っていかれた卒業生は、４万人を超え、県内はもとより全国各地の様々な分野で活躍し大きな功績を残されております。また、2009年から2011年にかけて、小説「坂の上の雲」がドラマ化され、松山出身の若者たちが、激動の明治時代を大きな志と使命感を持って、前を向いて歩んでいく大切さを伝えてくれた物語にゆかりのある学校として脚光を浴びました。そして、登場人物の一人で、本校の第４代校長であった秋山好古先生の生き方とも相まって、この小説を語ることができる唯一の学校であることは、誇りの一つでもあります。本校の歴史を学ぶ度に、身が引き締まる思いを抱くとともに、伝統校としての風格を感じることができます。

本校創立以来、長く受け継がれてきた校風は、「質実剛健」と「清楚」であり、この校風を実践し、皆さんが伝統ある真の松山北高校生へと成長するために、校訓「文・武・心」についてお話しします。この各文字に込められた思いは、より高いレベルの意識をもって進路実現を目指す学び、高みを目指し、質の高い活動でトップレベルを目標に、切磋琢磨しながら仲間とともに人間力を高め合う部活動、懸命に取り組む文武両道の実践はもとより、社会貢献できる人材となるべく、心の成長や豊かさが育まれるように、感動や喜びとともに、感謝、思いやり、苦しみを体験しながら成長する学校生活のことであります。

この校訓「文・武・心」を実現するためのヒントにしてほしい考え方を紹介します。先日、JAXA・宇宙航空研究開発機構が実施した宇宙飛行士選抜試験に密着した番組が放送されました。4000人以上の応募者の中から、書類選抜を行い、第０次から第３次選抜を経て、最終的に宇宙飛行士候補者に選ばれたのはわずか２人という「史上最も過酷な選抜試験」としても話題になりました。

皆さんには、選考された２名のうちの一人である医師の米田あゆさんがリーダーを務めたチームが、あるミッションに失敗したときに話していた内容の一部をお話しますので、参考にしてもらいたいと思います。二つあります。一つは、研修医時代は失敗の連続だったので、「失敗を失敗で終わらせない」という考え方を普段の仕事から身に付けていたということです。もう一つは、失敗の連続の中、思い悩んでいた時に、大きな支えとなった先輩からの助言は、「様々な場面で決断したり、選択したりする機会があります。誰しも悩んで、正しい答えは何か、を考えて導きますが、その決断、その道を正しい道にするのは、自分である。」「悩むのはすごく大事なことだけれども、何が正しかったのか振り返り、あっちが正しかったか、こっちが正しかったのかではなくて、自分が歩んだ道、決断した道を、正しい道にする努力をしなさい。」と励まされたそうです。

松山北高校は、学習活動、部活動、学校行事やボランティア活動など、質にこだわり、より高いレベルを目指す上で、全てがうまくいかないことや失敗して挫折することも当然ありますが、松山北高校を選んだことが、正しい選択であったと心から思えるよう、校歌「澄みたる瞳」の歌詞のように、たゆまぬ歩みを続け、皆さん自身がその先にある、花咲く未来に向かって旅立てることを期待します。

結びに、保護者の皆様におかれましては、豊かな可能性や才能のあるお子様を本校に託していただきまして、改めて感謝申し上げます。新入生の皆さんにお伝えします。本校生徒の努力目標「心躍る学び合い～一朶の雲を目指して～」、夢や希望を実現するため、本校卒業生の直木賞作家である天童荒太さんのヒントでお伝えするならば、二つの選択する道があれば、あえて楽な道ではなくて、困難で険しい道を選ぶそうです。挑戦の気持ちを忘れず、人間力を高め、自立への道を一歩一歩、力強く踏み出していくことを心から願って、式辞といたします。

令和５年４月10日

愛媛県立松山北高等学校長　友澤義弘